

UDLM

6

vol.307

June 30th
2021

自ら
駆け
抜ける

- p.2 思い思いに実践を積み重ねて
- p.2-3 UDC まちづくりコンペ
受賞者インタビュー
- p.4-7 研究室の枠を超えた
個人的プロジェクト
- p.8 研究室メンバーの
アルバイト事情！

個人的プロジェクト①
石川県加賀市 | M2 鈴木

山代の文化を紡ぐ山背の山をみんなで再生する

萬松園再生プロジェクト



背景 | 山代温泉の歴史・文化とともにある萬松園の荒廃

開湯 1300 年の歴史を有する山代温泉。その総湯・湯の曲輪に寄り添うように萬松園があります。まちのすぐ近くにも関わらず、実際に散策してみると荒廃した萬松園がそこにはありました。放置され繁茂した草木、昼間でも薄暗い散策路、イノシシやクマの出没、廃業した温泉旅館。非常にもったいないと感じました。



▲ 荒廃した萬松園の様子

目的 | あらゆる関係者で、未来の暮らしの豊かさ

山代温泉の歴史・文化と密接に関係してきた萬松園だからこそ、所属や立場、年齢の垣根を超えた皆で再生していくことを目指しています。萬松園と山代温泉のまちや人々との関わりを回復して、未来の暮らしの豊かさに繋がる環境を育てていきます。そのために、ゆるやかに連携するチームづくりと萬松園の環境づくりを進めています。



▲ 明治 34 年『加賀山代温泉所全圖』

経緯 | アクションとビジョンを往復して、更新し続ける

2018 年に PLUS KAGA という加賀市主催の大学生ワークショップに参加しました。ワークショップをきっかけに「萬松園再生プロジェクト」を立ち上げ、今年度で継続して 4 年目になります。『できることから少しずつ実践するアクション』と『長期的な視点で萬松園の将来像を描くビジョンづくり』を意識して反復しています。



▲ 萬松園 PJ カレンダー

ビジョン | 卒業制作にて萬松園の将来像を描き、提示する

萬松園の草木は放置され、繁茂して、薄暗い環境であると同時に土壌の環境も空気や水が根詰まりを起こしています。また、萬松園内部には大規模化した温泉旅館や廃業した旅館が立地しており、環境悪化に繋がっています。こうした問題は数年では解決できず、長期的な目線で考える必要があり、30 年後を想定した萬松園のランドデザインを検討し、発表しました。



▲ 卒業制作の地域住民への報告会



▲ 廃業旅館のコンバージョン提案

▲ 温泉旅館の更新提案

アクション① | 子どもたちと魅力再発見 (2019 ~ 2020)

学童や学習支援組織と連携して、山代温泉の小学生とともに萬松園の資源を子どもたちの目線から再発見する『薬師山探検隊』を結成し、萬松園のフィールドワークを行いました。萬松園の自然資源や歴史・文化的資源の再認識、日常的に萬松園と関わる機会の創出、将来の萬松園の活用や維持管理の担い手の育成を目的としています。

「自然」や「歴史・文化」というテーマからそれぞれのプログラムを企画・運営しました。



▲ 萬松園を巡って、子どもたちと自然体験や石仏観察



▲ 萬松園で採れたシノミヤ笹茶を味わう

▲ 子どもたちと萬松園の植物を学ぶ



▲ 地元住民や全国から寄贈された石仏を観察

▲ 山代温泉と萬松園の関わりを紐解く

シノミヤ笹茶をいただく、葉や枝を用いて工作する、小さな生きものを見つける中で自然と触れ合い、八十八の石仏を観察することや山代文化遺産と萬松園の関わりを紐解くことを通じて、萬松園の歴史性・文化性を考えました。かつては親が温泉旅館で働く間、上の子が下の子を連れて萬松園で遊んでいたそうです。そうした環境に近づく第一歩としての活動ができました。

開催日	テーマ	プログラム内容	参加者数
4/20	総合	萬松園を知ろう	17
5/25	自然	萬松園の自然を見つけよう	14
6/22	歴史・文化	萬松園の石仏を見つけよう	13
7/27	歴史・文化	萬松園の石仏を比べよう	10
8/24	自然	萬松園で材料集めをしよう	14
9/7	自然	萬松園で工作をしよう	11
9/28	歴史・文化	萬松園の石仏を比べよう	7
11/2	自然	萬松園の恵みをいただこう	6
11/30	総合	萬松園の過去から未来を考えよう	14
12/7	歴史・文化	萬松園の石仏を比べよう	5
12/21	歴史・文化	萬松園で宝物を見つけよう	4
1/11	歴史・文化	萬松園で石仏をもう一回観に行こう	4
2/22	総合	萬松園の石仏を比べよう	7
2/29	総合	小さな発表会・終了式	7
10/11	総合	探検隊報告会「お宝を伝えよう」	26

▲ 自然や歴史・文化を体感する全 15 回の探検

アクション② | アカマツ林の再生 (2021)

もともと萬松園全体に自生していたアカマツはバイオニア植物と言われ、養分の少ない土壌に適しています。現在はシイなどの巨木群や、スギ林、竹林など様々な植生へと遷移していますが、土壌としてアカマツに適した尾根で、長期的なビジョンのもとアカマツ林を再生しようと動き出しています。加賀市種苗協会と連携して、マツクイ虫に耐性のあるアカマツ「加賀一号」の植樹を行いました。地域住民の方々とともに環境の維持管理に取り組むだけでなく、子どもたちとともに観察などの学びや里山遊びを展開しています。



▲ 様々な人たちとともにアカマツ林の環境づくり



▲ アカマツに適した環境づくりを丁寧に行う

▲ 子どもたちとアカマツの観察



▲ 北国新聞やテレビ金沢に取り上げていただいた

▲ 萬松園で集めた松の枯葉を燃料に「こっさめし」

これから | Park-PFI と連動した持続的な萬松園の再生へ

アカマツの植樹、維持管理、観察、里山遊び、笹茶、シノミ、こっさめし。様々な萬松園の利活用と維持管理の動きの種まきを進めています。利活用と維持管理が一体となって、萬松園を継承していく組織づくり、空間づくりを継続して行っています。

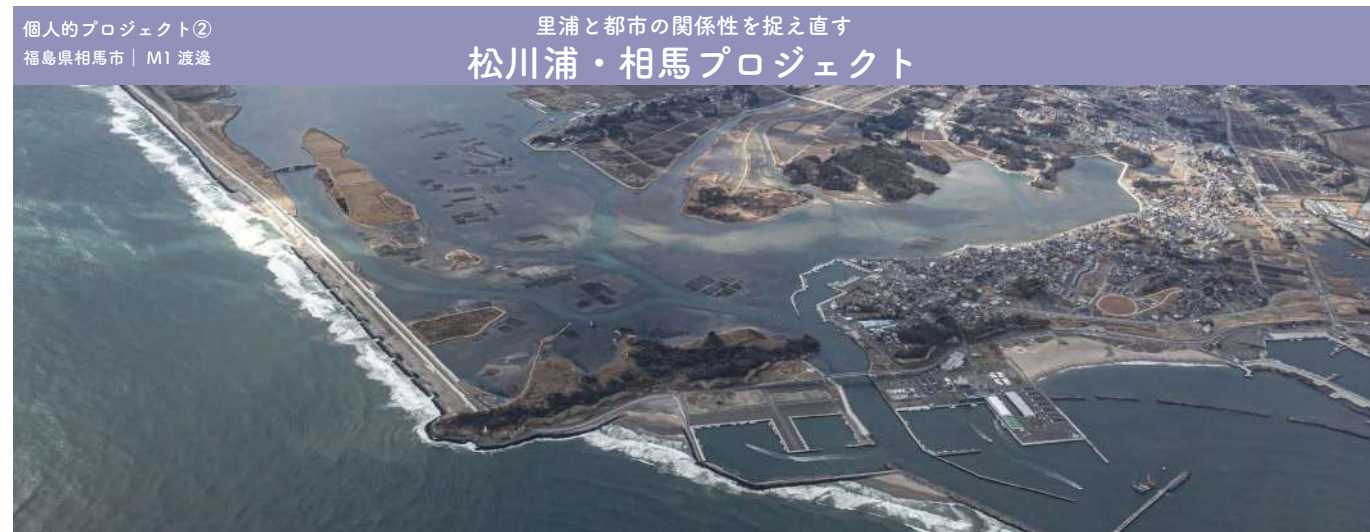
利活用での大きな動きとして、加賀市と薬王院温泉寺という主要社寺が所有する萬松園の一部で、Park-PFI の構想が進められています。今後は地域住民の利活用と維持管理の動きに加え、Park-PFI 事業者やその事業とも連携して、いかに萬松園をサステナブルに再生できるかを考えています。



プロジェクトを進める学生の声
都市デザイン研究室
修士 2 年

鈴木 直輝

研究室のプロジェクトやアルバイトで獲得した知識や技術が萬松園に活かせることもあれば、萬松園でのことが他に活かせるということもあります。その一方で、構想した都市デザインを自ら実践し、地域に実装することは非常に難しいと痛感しています。持続的な萬松園の再生を地域に実装するために、これからも着実に小さなアクションとビジョン作りを繰り返して、地域に携わっていきたくと考えています。



個人的プロジェクト②
福島県相馬市 | M1 渡邊

里浦と都市の関係性を捉え直す 松川浦・相馬プロジェクト

背景 | 松川浦と生活空間のズレ

私が活動をしているのは福島県相馬市です。相馬には松川浦という美しい汽水湖があり、人々との関わりの中で独自の環境を築いてきました。里地・里山ならぬ里浦です。しかし、東日本大震災及び復旧・復興工事の影響により松川浦はその景観や相馬市における役割を大きく変えました。漁業やレクリエーションに悪影響がでるなど、人々の生活から少し離れてしまいました。



▲ 震災直後の松川浦・防波堤沿いの姿

目的 | 美しい松川浦を後世に引き継ぐために

私は人々との関わりの中でこの環境を引き継いでいく必要があると感じました。幼少期に訪れていた時の松川浦での記憶は美しい夕焼けであったり、楽しい潮干狩りであったり、謎に満ちた浦内に浮かぶ小島の散策であったり……それらすべてに変化が生じています。美しく楽しい里浦を後世に引き継いでいくお手伝いをしたいと考えました。



▲ 美しい夕暮れ・こういった景色を引き継いでいきたいと考えました

取組 | 卒業制作から松川浦・相馬プロジェクトへ

昨年度から生態系保全団体「はぜっこ倶楽部」の活動や会議に参加させていただき、松川浦を対象地として卒業制作に取り組みました。引き続き松川浦の生態系や環境に関する取り組みに参加し続けようと思っています。それに加えて、大学院では幸運な出会いがあり、教育学部の「相馬プロジェクト」に参加し、教育や観光の側面からも現地に関わらせてもらっています。



▲ 卒業制作外部出展・多くの方に見ていただくことができた



▲ 生態系保全団体の方々への調査



▲ ガマガエル駆除への参加

これから | 松川浦・相馬市内という二本の軸を持って

松川浦での生態系保全活動と相馬市での教育や観光に関わる活動に参加することで、里浦空間と生活空間の2つを結び付けるような取り組みをしたいと考えています。自分なりの将来像を描き小さい働きかけでも積み重ね、少しでもその2つのギャップを埋めることができればと思っています。



プロジェクトを進める学生の声
都市デザイン研究室
修士1年

渡邊 大祐

研究室では上野PJ及びみなかみPJに参加しています。実際の都市に関わることや、提案をすることの難しさを感じつつも、日々対象地から多くのことを学ばせてもらっています。小さいアクションや働きかけでも繰り返し、少しの変化からでも都市をデザインしていければと思っています。



個人的プロジェクト③
東京都台東区 | M1 神谷

まちの歴史と生活文化をつなぐ 谷中プロジェクト

背景 | 江戸から継承されてきた街並みの変化

江戸からの寺町「谷中」。震災・戦災を免れ、江戸期以来の敷地割と70を超える寺院、明治大正昭和の町家や長屋が現存し、江戸東京の暮らしと街並み風情を今もなお残す数少ないまちです。しかし、高齢者の退去に伴う空き家・駐車場化、建て替え、相続を機とする売却・分割などが原因となり、年々伝統的な建物は減少。ミニ開発が進み、街並みは大きく変わりつつあります。



▲ 周辺地域に高層ビルが建つなかで寺町としての風景を守り続ける谷中

目的 | 点から面への活性化

上のような変化に直面している一方で、現存する町家や長屋を新たに店やギャラリー、オフィスとして再生活用する動きもあります。こうした動きにより、新規居住者や来街者が近年増加し、歴史的な建物が新たな地域の活力となっています。今後はこうした個の建物を活用する点の動きが波及して繋がりが、面となって谷中の魅力的な街並み・生活文化を次世代に継承していくことが期待されます。



▲ 歴史的な建物を地域に開いて再生活用された店舗やオフィス

取組 | 地域の個性としての歴史的な建物の魅力発信

NPO たいとう歴史都市研究会（以下、たい歴）は、谷中を中心に歴史的建物の保全活用が地域内に波及していくことを目指し、「再生活用のモデルハウス」をつくるなど、長期的に多様な活動を進めています。現在、私はたい歴さんの取り組みに参加させていただき、イベントのお手伝いなど歴史的な建物の魅力を地域の人に広める活動に取り組んでいます。



▲ NPO 法人たいとう歴史都市研究会 <http://taireki.com>

これから | 取り組みの地域内外への波及に向けて

今年はたい歴20周年という節目であり、これまでの活動を記念書籍などの形でアーカイブする取り組みを進めています。個の建物が再生活用されるまでに、オーナー、NPO、新規入居者の間にどんなやり取りがあったか、背後の物語を1つ1つ丁寧に語り継ぐことで、自ら活用に踏み出すプレイヤーを地域内で増やすだけでなく、そのノウハウを他地域にも活かすことができる、そんな重要な取り組みだと感じています。



プロジェクトを進める学生の声
都市デザイン研究室
修士1年

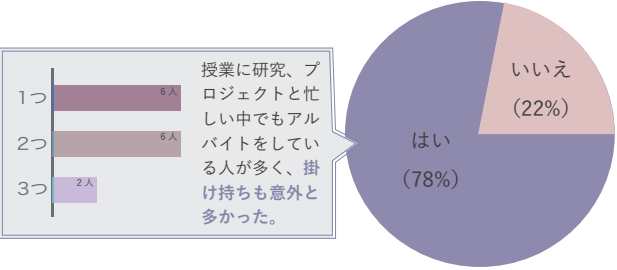
神谷 南帆

今はまだたい歴さんの活動のなかで自分にもできることに関わらせてもらっている状態ですが、今後は“学生だからこそできること”に主体的に取り組みたいという想いがあります。研究などで谷中に関わる学生は多くいるなか、学生間の繋がりが無く、どうにか構築できないか……と考えています。一緒に活動していける仲間を絶賛募集中です！

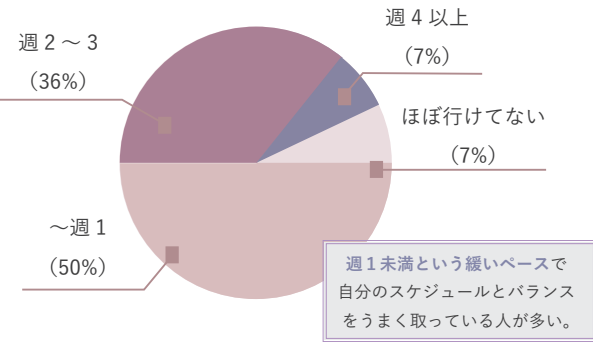
研究室メンバーのアルバイト事情！

学生の“自主的な取り組み”といえばアルバイト。ということで、今回は都市デザイン研究室メンバーのB4-M2生（計22人）と先生方にこれまでのアルバイト経験についてのアンケート調査を行った。

Q1. 現在アルバイトをしていますか？



Q2. 現在の頻度を教えてください



先生方のアルバイトエピソードトーク

民家の方の優しさに触れた忘れられない(?) 交通量調査

バスで連れていかれた地方のまちは、たいそう吹雪いていた。カウンターを握る手は凍え、昼食のカップラーメンはお湯を入れた瞬間冷めた。その様子を見かねた沿道の方が「こちらにお入りなさい」と、交差点に面した古い民家の土間に招き入れてくれて、そこからはガラスの引き戸越しに調査することができた。民家と通りは土間を通じて確かに繋がっていた。地域の人の優しさと民家の暖かさは今でも覚えているけれど、あのまちの名前は、いつの間にか忘れてしまった。

中島先生

伝説のハマグラールを目指し、焼き続けた思い出のはまぐり

青山の焼はまぐり酒場で、はまぐりを焼く担当(=ハマグラール)をしていた。お通し代わりに客がストップと言うまで無言で焼はまぐりを出し続ける「わんこはまぐり」システムを採用していたため、1晩で200はまぐりを焼いた夜も(250焼いたハマグラールは伝説になれるという噂だった)。はまぐりを焼く機会があればお声がけ下さい。(笑)

永野先生

キャリアパス (career path) につながるアルバイト

恩師の中村一先生が様々なPJで協働されていた建築家の瀧光夫さんの設計事務所でのアルバイト。建築とランドスケープの相互関係やせめぎ合いをニュートラルな立場で直接見た経験、手描きスケッチへのこだわり、米留学などその後の私のキャリアパスにたしかに繋がっている。...

宮城先生

COLUMN

BOOK OF THE MONTH

HISTORIC PRESERVATION
curatorial management of the built world
James Marston Fitch
THE UNIVERSITY PRESS OF VIRGINIA
1992

推薦者
M2 CUI

It is a basic text for both the novice entering the field and the specialist. The author covers many disciplines, concepts, and technologies needed by the preservationist, discussions of the economic, legal, and legislative forces acting upon historic district planning.

WEB MAGAZINE 続きは都市デザイン研究室 HP で！
<https://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/>

高島平 PJ 現地調査
高島平エリアの民有歩道状空地である「自主管理歩道」について、朝の通勤時間帯にアクティビティ調査を行いました！歩道ではなく、路側帯や車道を歩く人々の姿が散見されたのが印象的でした (M2 藤本)

新宿区景観ワーキング始動！
中島先生が委員長を務める新宿区景観計画委員会のもと、景観形成ガイドラインの改定ワーキングが始まりました。他大学の学生とともに2ヶ月ほどをかけて新宿区を練り歩き調査をする予定です。(M1 若松)

LOOKING BACK AT JUNE

9th 高島平 現地調査
18th 新宿景観ワーキング キックオフ mtg
20th 手賀沼 生き物観察会
5th,20th 下吉田 現地調査
26th,27th 中宇治 現地調査

研究室会議 7th,17th,29th

POSTSCRIPT

修士の2年間はあっという間だ。その間に、それぞれの形で都市デザインの試行錯誤を繰り返す。まちと向き合う作法を身につける時間とも言える。限られた残りの時間を思う存分楽しみたい。(M2 鈴木)